

2010年度 プロジェクト経費 成果報告書

愛知教育大学附属岡崎中学校

学びを深め合う教育課程の創造

－ 9 教科連携の教育課程 －

本校では、9教科で繰り広げられる問題解決的学習過程を経た子どもは、教科の中の追究だけでは満足せず、「もっと追究をしたい」と思いをふくらませる。わたしたちは、そんな子どもの思いや願いを見取り、発展的個人追究の場を保障してきた。

とことん個人の追究を進めていくことは、本校の伝統である。時代が移り、社会が変わろうとも、本校が実践してきた、子どもの思いを大切にしながらダイナミックな追究の本質は決して変わらない。

平成19年からの「次代を創る－学びを深め合う授業の実現から－」の研究では、以下の三つの追究を重視する項目としてきた。

・未来につながる追究 ・開拓する追究 ・予測していく追究

この自ら見通しをもち解決していく学びを、本研究では「fMAP」と呼ぶ。fMAPでの学びは個人追究を基本としている。子どもが夢を探し、自ら学びの地図を描くことがfMAPの名称の由来である。

未来 (future) ・開拓 (frontier) ・予測 (forecast) の3つを意識させ、将来とのつながりを意識させながら取り組んできた。

子ども自身が追究を方向付け、決定することができるように対話を進めていく。そのために、個々の追究の様子を把握し、仲間や異学年と交流できる環境を整えていく。また、学校内だけでなく、積極的に校外追究にも目を向けさせて、取材計画を具体化していくことができるように支えている。

fMAPは、個人追究を基本とするが、追究の過程において、他者とのかかわりをもつことで、追究を進め、学びを深めていく。追究テーマをもった子どもは、インターネットや書籍を使った基礎追究にはじまり、電話取材などを行い、追究を深めていく。そこだけにとどまらず、その道の専門家への取材訪問など、追究は校外へと広がりを見せていく。1年生から追究の基礎を学んだ子どもは、継続研究で、自らの学びを深めていくことを楽しみ、テーマを変えながら学びを広げていくことの価値を感じ始める。



<取材訪問で学ぶ>

自分が疑問に思ったことや調べてみたいことについて、まわりの友達や先生に聞聞き始める。もっと知りたいという思いから、3年生では、修学旅行の機会に専門家を訪れ、意見交流を楽しむ。

追究することにより考えが生まれると、その考えをだれかに伝えたい、語りたいたいという思いが高まり、提案し、交流する機会を求め始める。そして、同好の者が集まり、思いや考えを語り合い、刺激し合う自主的な学びの深め合いへと広がっていく。高まる思いがあるからこそ伝えたい。語り合いたい仲間がいるからこそ、熱の入った討論となる。ふとした休憩の時間に繰り広げられるこの自然な学びの深め合いこそが、新たな自分を創る姿であり、次代を創る子どもの力となる。



<夢の実現に向けて>

追究してみてわかったことを基にして、自分の考えを友達に伝えたい。伝えることで考えがまとまり、新しい見方ができるようになる。また、友達の意見を参考に、さらに追究したい内容と出会うことを期待する。

また、異学年交流を意図的に構想していく。1年生は3年生からテーマ設定の仕方、追究の方法、取材のポイントを学び、自分の追究に見通しをもつ。さらに、先輩のダイナミックな追究にふれることで、大きな夢の実現に向けて追究を始める。2年生になると追究の成果を発表する機会をより多く求め始める。提案内容のおもしろさ、追究の確かさが認められ、自分の追究に自信をもつ。同時に、根拠となる考えの不足や、考察の甘さを指摘されることで、さらなる追究への見通しをもち、意欲を高める。3年生は、1・2年生からアドバイスを求められることで、今までの追究を改めて振り返り、価値づけたり、新たな視点を得たりしながら、自らの追究を深めていく。



<先輩に学ぶ>

1年生は3年生からテーマ設定の仕方、追究の方法、取材のポイントを学び、自分の追究に見通しをもつ。さらに、先輩のダイナミックな追究にふれることで、追究活動そのものに魅力を感じ始める。

このような経験を積み、学びを深め合う価値を実感した子どもは、仲間を巻き込んで、新たななかかわりや、学びの深め合いを求めていく。こうした学びの経験の繰り返しは、子どもの問題を見つけ、解決する力を高め、将来の自分の生き方へとつながっていくこととなる。



1 研究主題にかける願い

夢があるところ、それが学校である。

子どもは、人とかかわり、夢を大きくふくらませていく。

子どもは、仲間とともに夢を語り、夢の実現のために学びを深めていく。

子どもは、仲間にはたらきかけ、夢を創造していくことに魅力を感じる。

子どもには、学校での学びを土台として、夢が生まれ続ける社会を創造することを願う。

そうするために子どもは、時代を見きわめ、変化に柔軟に対応することが必要になる。

わたしたちの考える次代とは、理想としている社会を創造していく過程で、一人一人の子どもが主体となり活躍する時代である。

《めざす人間像》

次代を創る主体として生きる人間

今日の社会は、あらゆる場面で大きな変化が起きている。明日は、わたしたちの予想を超える社会が現れるかもしれない。その社会は、多くの事象が影響し合いながら形成されていくであろう。

次代を担う子どもには、今までのものの見方や考え方を理解したうえで、そのよさと足りなさを見きわめながら、新たなものの見方や考え方を生み出そうとする姿勢をもち続けてほしい。そして、周囲の人々とともに、理想とする社会を創り出してほしい。

人が多くいれば、思いや考えも多く存在する。個々の思いや考えが深まるということは、個の中で多くの人から得た思いや考えを整理・分類し、正しいものを選択し、新たな思いや考えが形成されることであると考ええる。

子どもは、思いや考えを表現し、自らを輝かせようとする。わたしたちは、その輝きが増すように支援していく。そして、子どもは思いや考えを出し合い、多くの人とかかわることにより、確かな方向性を見いだしていくことができる。

このような経験を積み重ねた子どもは、他者とかかわる価値を自覚し、自らかかわりを求めるようになる。

2 中学校3年間で育てたい子ども

わたしたちは、めざす人間像へと成長していくように、中学校3年間で育てたい子どもを以下のように設定した。

《中学校3年間で育てたい子ども》

学びを深め合う中で、
新たな自分を創り続ける子ども

学びを深める

学びの基本は、個にある。どの教科の学習であれ、どのような形態の学習であれ、まずは個が問題意識をもち、学びを積み重ねることが大前提となる。この積み重ねにより、新たなものの見方や考え方、確かな技能、態度を身につけることができる。

本研究における問題意識とは、「対象とのかかわりの中で、自分が抱いた疑問や願いに対して、解決や実現への見通しをもって動き出そうとする気持ちや状態」ととらえている。

わたしたちは、学びを、知識の獲得や技能の習得に限定しない。子どもは、さまざまな事象と出会い、かかわった人・こと・ものを自分の中に取り入れ、意味づけ、関係づけていく。つまり、情報を獲得、吟味、再構成することをとおして、自分の考えをつくりあげていくのである。

このように、子どもが成長していく過程を、個の変容という視点からとらえたとき、学びを深める姿が見えてくる。

学びを深め合う

学びを深めるためには、個の学びを積み重ねていくことが大切である。しかし、子どもが次代を創る主体となるためには、個の学びを深め、考えをつくりだすだけでは十分ではない。自分の考えを表現するだけでなく、他者へはたらきかけ、周りの人々とともに学ぶことが必要である。

このように、子どもが他者を意識する中で学びを深めていく過程を、他者とのかかわりという視点からとらえたとき、学びを深め合う姿が見えてくる。

他者とのかかわりをとおして、ものの見方や考え方に相異があることに気づいた子どもは、自分の考えを振り返り、見つめ直す。これが、事象に対する認識を深めていくこととなる。この経験から子どもは、自分の学びが他者とのかかわりの中で深まっていることに気づく。さらには、他者の学びが深まっていく姿も見えてくる。

子どもは、学びを深め合う経験を繰り返していくことにより、他者へはたらきかけ、周りの人々とともに学ぶことの価値を自覚する。そして、新たな学びの深め合いを求めて動きだす。これが、新たな自分を創ることにつながり、自分と周りの人々とともに次代を創る基盤となる。

新たな自分を創り続ける

わたしたちは、学びを深め合う授業を実現することで、学びを深める子どもの姿が表出することをめざす。そこには、新たなものの見方や考え方を身につけ、成長する子どもがいる。この成長が、新たな自分を創ることである。

中学校3年間をとおして、子どもが新たな自分を創る経験を繰り返し、積み重ねていくことで、今まで気づかなかった自分の可能性を見いだすことができる。学びを深め合う価値を自覚した子どもは、可能性を求め、さらなる学びの深まりを求めて動き出していく。

これが、新たな自分を創り続けるということである。この経験を積み重ね、子どもはわたしたちがめざす人間像へと成長していく。

3 学びを深め合う授業を実現するために

四つの学習過程を位置づける

わたしたちは、学びを深め合う授業を実現するために、単元の中に四つの学習過程を位置づけ、はたらきかけを講じていく。

「問題意識をもつ過程」は、対象と出会い、子どもが解き明かしたい疑問や、実現したい願いを抱き、見通しをもって動き出そうとする過程である。

子どもは、これまでの経験や自らの認識の中になかった対象と出会ったとき、本質を見きわめようと動き出す。また、自分の理想の対象と出会ったとき、その魅力にひかれ、自分を成長させていく。

「問題意識を共有する過程」は、個々の問題意識を問い直し、解き明かすべきことや、実現すべきことは何であるのかを明確にしていく過程である。

追究を進めていく中で、個々の問題意識をもとに、対象について思いや考えを交流し、問い直すことで、子どもは個々の問題意識の相異に気づく。そして、整理・分類しながら、仲間と解き明かしたい問題を明らかにしていく。

「学びを深め合う過程」は、ふりかえりや問い直しから、対象の本質に迫る見方や考え方を獲得する過程である。

他者とのかかわりをとおして、ものの見方や考え方に相異があることに気づいた子どもは、自分の考えを振り返り、問い直す。これにより、事象に対する認識を深めていく。

この経験から、子どもは自ら他者と交流したいという思いをもち、学びを深め合う。

「学びを深め合う価値を自覚する過程」は、子どもが、学びを振り返ることで仲間と学ぶ価値を自覚する過程である。

学びを深め合う経験を重ねた子どもは、自分の学びが他者とのかかわりの中で深まっていることに気づく。さらには、仲間の学びが深まっていく姿も見えてくる。

価値を自覚した子どもは、仲間へはたらきかけ、新たな学びの深め合いを求めて動き出す。

問い直しを図る

問い直しは、個の学びを深めるはたらきかけとして、すべての学習過程で行われる。

それぞれの学習過程で期待される効果は以下のとおりである。

問題意識をもつ過程では、自分の問題意識や、これまでの学びを振り返ることができ、さらに、見方や考え方を広げることにつながる。

問題意識を共有する過程では、仲間と解き明かしたい問題と、自分の学びの関係を明らかにすることができる。

学びを深め合う過程では、新たなものの見方や考え方を獲得することができ、相互の学

びを深めていくことにつながる。

学びを深め合う価値を自覚する過程では、これまでの学びを振り返ることで、仲間と学ぶ価値を自覚することにつながる。

わたしたちは、学びを深め合う授業を実現するためのはたらきかけとして、問い直しを大切にしている。

深まりの契機を生む

わたしたちは、学習過程の中に、一つのはたらきかけを契機に、子どもが新たな見方や考え方を獲得し、学びを深めていくことが想定されるはたらきかけを、深まりの契機として位置づけている。

また、子ども自身が深まりの契機を生み出すことも大切にしている。子どもの学びを見取り、それを生かした授業展開を構想していく。そうすることで、深まりの契機となると想定したはたらきかけが、子どもの中から生まれてくることもある。子どもが自ら学びを深める契機をつくり、授業が進展していく。

わたしたちは、深まりの契機となるはたらきかけを重視し、授業に意図的に位置づけていく。そして、授業の中で、子どもの見方や考え方を進展させる分岐点を生みだし、新たな自分の表出をめざしている。

4 次代を創るカリキュラムの構築

9教科で育つ

本研究は、9教科の学びを軸としている。そして、子どもが学びを深め合う中で、新たな自分を創り続ける姿の実現をめざしている。

しかし、その姿を、一授業や一単元だけで表出することは難しい。3年間をとおして構想されたカリキュラムによって、わたしたちは、各教科で、学びを深め合う授業を実現し、「学びを深め合う中で、新たな自分を創り続ける子ども」の育成をめざしている。

具体的には、教科ごとに新たな自分を創る姿を想定し、3年間の成長を考慮しながら、系統的に育てていくように構想する。

f-MAPで生かす

*f*MAPは、9教科の枠を越え、9教科で身につけた学び方、ものの見方や考え方を生かす場である。子どもは自ら疑問を見つけ、解決しようと学びを深めていく。また、*f*MAPで追究した内容や、見方、考え方を、さらに授業で生かす。*f*MAPと9教科は、相互に高めていく効果がある。

子どもは、教科の授業をとおして、さまざまな知識の獲得や技能の習得をする。また、多くの事象と出会い、かかわった人・こと・ものを自分の中に取り入れ、意味づけ、関係づけていく。さらに、深め合いの価値を自覚をした子どもは、自分の考えを表現するだけでなく、他者へはたらきかけ、かかわりを求めていく。

研究の全体構想

次代を創る主体へ

FMAP

FMAP

FMAP

新たな自分を創り続ける

新たな自分

新たな自分

学びの深め合い

学びの深まり

授業
単元

カリキュラム

9教科の学び

学校での学び

5 本研究の成果と課題

- 1年次（平成19年度）
カリキュラムの確立**
- ☆ 子どもの「学びの深まり」が仲間とのかかわり合いの中で進んでいくように「学び合い」を支えていく
 - ☆ 9教科で身についた力が、総合的な力となって、次代を創る子どもを形づくっていく
- 2年次への課題**
- ・ どのように子どもに「問い直し」を凶らせるか、「問い直し」の場面をどう演出するかを模索する
 - ・ 研究の全体構想を凶にまとめる
 - ・ 「学び合い」の価値を自覚した子どもの姿は、どのような形となって表出するのかを明らかにする
 - ・ どのような場面で、どのような形で自分の学びを振り返らせることが、「学び合い」の価値を自覚させることにつながるのかを模索する
- 2年次（平成20年度）
成 果**
- 個々の問題意識を引き出し、共有化していく過程を重視して授業づくりに取り組むことで、「学びを深め合う」姿が見られた。子どもが自分の問題を明確にして仲間と活発にかかわり、問題を解決していく姿が見られるようになった
 - 子どもの学びを見きわめ、学びを深めるための多様なはたらきかけを適切に行った。仲間とともに学びを深め合う中で、互いに成長することの価値を自覚する姿がみられるようになってきた
- 3年次への課題**
- ・ 問題意識を共有化するための、個々の問題意識を生かした効果的なはたらきかけを探る
 - ・ 各教科における「新たな自分を創り続ける子ども」について具体的な姿を提示し、それに迫るはたらきかけを探る
 - ・ 子どもが自ら問い直し、必然的な深め合いを生み出していくためのさらなる効果的なはたらきかけのあり方を明らかにする
 - ・ 9教科との関連をふまえたfMAPの効果的な運用方法を模索する

3年次（平成21年度）

成 果

- 単元の中に「四つの学習過程」を位置づけた
- 深め合いを支えるはたらきかけによって、他者を意識しながら、夢中になって学習に取り組む子どもの姿が見られた
- 子どもが自分の考えを問い直し、新たなものの見方や考え方を身につけていく姿が見られた
- 新たな問題意識をもとに、仲間や対象となる人の考えを求めて動き出す姿が見られた
- 各教科で「新たな自分を創り続ける子どもの姿」を想定し、はたらきかけを行ってきた。その結果、深め合いの価値を自覚し、子どもが新たな学びを求めて動き出そうとする姿が見えた

4年次への課題

- ・ 深め合う過程で、子どもが深め合いを生み出し、コーディネートする力を身につけていく方法を模索する
- ・ 子ども自身が深まりの契機を生み出すために、教師のはたらきかけはどうあるべきかを探る
- ・ 深め合いの価値の自覚をどのように分析し、検証方法を明らかにする

4年次（平成22年度）

成 果

- 単元の中に「四つの学習過程」を位置づけ、「問い直し」を図ること、「深まりの契機」となるはたらきかけを重視し、授業に意図的に位置づけることで学びを深め合う授業を実現させた
- 問題意識を引き出す十分な対話を行うことが、自らの問題意識を問い直し、対象に真剣に向き合うことにつながることを確認できた
- 個々の問題意識を引き出し、共有化していく過程では、自分の問題を明確にして仲間とかかわり、追究の見通しを明らかにする姿が見られた
- 深まりの契機となるはたらきかけを講じることで、仲間とのかかわりだけにとどまらず、新たな自分を表出させる姿を確認することができた
- 子ども自身が深まりの契機を生みだし、授業をつくることができた実感する姿を表出させることができた
- 子どもが新たなものの見方や考え方を獲得したときに、新たな問題意識をもとに、仲間や対象の考えを求めて動き出す姿が見られた

6 課題と夢

すべての学びはつながっており、自分に関係のない学びは存在しない。

学びを深めたものは、他者に問いかけ、他者の考えを引き出すことができる。そして、同じ問題意識をもった仲間と学びを深め合うことができる。

互いに学びを深めたもの同士であれば、相手の考えはどのようなものか、自分の考えと比べて共通する部分はどこか、異なる部分はどこかと解決の視点を探る。そして、一歩引いた位置から自他の考えをながめることで、どの視点であれば共通の話題をもつことができるのか、自分たちに足りない視点は何かと、学びを振り返り、関連づけて考えることによって、学びを深め合うことができる。

学び方、学びを深め合う術を知っている子どもは、教師が想定し、しかけた深まりの契機を必要とせず、自らかかわりを求め、深め合っていくことができる。つまり、いつでも、どこでも、誰とでも学び合い、深め合うことができるのである。

学びをコーディネートする力

相手の考えを正確につかみ、足りない点を指摘することで、共通の土台に上げたり、相手の考えから自分の足りない視点を見つけ、自らの考えに生かしたりできる力。そして、対象の本質を追い求め、相手を巻き込みながらひたすらに追究する姿勢。まさに新たな自分を創り続ける姿といえる。

子どものもつ無限の可能性を、すべての教科において保障していきたい。子どもが描く数多くの夢をみとっていきたい。

子どもが創る次代に向けて

すべての学びをつなげ、まわりを巻き込み、自らの考えを深め続けていく子どもの姿を実現するために、さらなる一步をふみ出していけたらと願っている。